

## まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 10 月 26 日（土）10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：大井分公民館

出席者：7 人

1. 開会
2. 町長挨拶  
※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）  
※質疑応答
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他  
(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）  
※質疑応答
7. 閉会

《質疑応答》

【北海道介護福祉学校の存続・教育情勢に関して】

町民：

町の教育情勢を聞きたい。

教育長：

栗山町も他の町と同じように児童数が減少しており、5 年後には栗山小学校も 1 学級編成になる。これは全国的な傾向で、少子化の影響。その中でも、子どもたちに必要となる教育活動はしっかりと保障したい。この地域の子どもたちが通う角田小学校は、あまり児童数に変動がなく、今後も続いていくと考えられる。角田小学校のような小規模学校には、いい面と悪い面がある。いい面としては、子どもたちの仲が良いこと、年上の子が一生懸命に下の学年の世話をすること、何かの活動をするときに一緒に協力できること。また、教員に対する生徒数が少なく負担が少ないため、手をかけてあげられる機会が多く学力も高い。その反面、児童数が少ないために集団活動ができなくなっている。事例として、体育や音楽での影響が大きく、ドッジボールができないといった問題が出ている。現在は、角田小学校と継立小学校の合同で年に数回、定期的に体育を行うような取り組みを進めている。今の段階では、3 つの小学校が一緒になってさまざまな活動ができるような環境整備を進めていきたい。

介護福祉学校については、高齢化が進んでいる中で、介護福祉士が今後絶対に必要になってくるということは共通認識であり、町民の皆さんにも介護福祉学校の必要性はご理解いただけている。しかし、高校生の数も減少していて、就職環境も良くなっているため、介護の仕事を目指す子どもが少なくなっている。介護福祉学校も一生懸命生徒募集に向けて努力しているが、なかなか受験者数が増えておらず、町財政に大きな負

担をかけている。まずは令和4年までしっかりと検討し、結果を出していきたい。

町民：

資料②の7ページに介護福祉学校の授業料の改定について記載があるが、どのようなことか。

町長：

収入を増やす一つの対策として授業料を上げることも検討しているが、議会の中で、授業料が上がることで生徒数減少につながるかもしれないという意見もあり、状況をみながら検討していく。一つの検討項目として考えていきたい。

町民：

短大になると、授業料が下げられるということになるのか。

町長：

今の制度上、学校教育法の1条校に定められる市町村立の大学や短大、高専は、生徒数に応じた国からの財政支援が受けられる。専門学校では1条校に含まれず、支援が受けられない。専門職短期大学になれば財政支援が受けられるが、だからといって授業料が下げられるかどうかは、経営を見なければわからない部分がある。現在、介護福祉学校の定員を40人に削減する計画だが、もし40人集められたとしても、年間3,000万~4,000万円の赤字となる。現在の8,000万円の赤字より縮減されるが、それでも赤字は発生する。もし短大化されて国の支援が受けられれば、累積赤字の補填に当てたい。授業料を下げるのは、その先の話になってくると思う。専門職短大にステップアップするとしても、ハードルが高く難しい問題が多いため、連携する大学とも協議しながら取り組んでいきたい。現在、ほとんどの介護学校が民間だが、5年間で20%の介護学校が経営難により廃校になっている状況もある。授業料の改定については慎重に判断したい。

町民：

子どもがなりたい職業として、介護福祉士が上がってくれば良いが、待遇や環境の問題があり難しいところもあるだろう。

町長：

待遇や環境の改善についても、別方面で国に対してしっかりと要請していきたい。

#### 【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院について、他の懇談会場では皆さんの意見が大きく2つに分かれている。1つは病院建設には多額の資金が必要であるため、近隣の町と協力して、栗山町でなくても総合病院を作ってはどうかという意見。もう1つは栗山町のまちづくりに総合病院は必要であり、病床数を減らし、規模を縮小して総合病院を維持してほしい。そこからはみ出た患者は2次医療圏や3次医療圏の岩見沢市・札幌市と連携して、地域の医療を守

っていくような方法が良いのではないか、という意見。皆さんにいただいた意見をもとに、まずは本年度中に方向付けをして、それから中身を詰めた議論をしていければ良いと思う。今後も引き続き皆さんのいろいろな意見をお聞きしたい。

町民：

お金のことを考えなければ、今、介護施設の入所ができず、順番待ちしている状況もあるため、病院と高齢者施設が併設され、施設から簡単に病院に行けるようなところがあったら良い。個人的には、地域連携の病院は現実的に難しいのではないかと思う。

福祉総括：

町では、2040年には人口の約50%が75歳以上になると言われている。今でも病院や施設は満床になっており、在宅を推奨しているが、環境整備も難しい。近隣の由仁町や夕張市は、病院を縮小して診療所にし、その横に高齢者施設を併設していて、国も病院を縮小し、連携する高齢者施設を整備することを推奨している。近隣の受療動向としては、南幌町民・夕張市民はそれぞれ60%が、長沼町民については50%が札幌市へ行っている。国が定める医療圏では、1次医療圏は各市町内、2次医療圏は岩見沢方面、脳外等高度な医療を受けるための3次医療圏は札幌市としているが、南空知は札幌圏に近い環境にあるため、医療圏を越えて医療を受けているような特殊な地域とも言える。日赤病院については、平成22年からずっと協議を続けているが結論は出しておらず、耐震の問題があるため、他の町と違って早急に改築問題を進めていかなければならない。胆振東部規模の地震が栗山町でおきれば、病院倒壊の可能性もあるため、今年度中に方向性を示し、対応していきたい。方向付けをしてからも、皆さんにいろいろなご意見をいただき、スピード感を持ちながらも慎重に進めていきたい。

町民：

もし病院を建てるなら平屋で良いと思う。5階建てだから耐震の問題が出てくるのではないか。建物を高くしなければ耐震の心配もなく、良いのではないかと思う。

町長

今の136床を維持するとなると、5年前の試算で約80億円と言われており、今積算し直せば約100億円かかると思う。もし日赤病院改築となれば、おそらく今の136床を維持することはできず、病床数を削減することが必要。改築の方向で決まれば、大きさや診療科目についても考えていかなければならず、方針が決まってから完成まで7~8年かかると思う。期間があけば建築費の高騰も考えられるため、早急に方向付けをしていきたい。まずは方向付けをして、町民の皆さんとの議論をしっかり積み重ねていき、最終的に決断をする、という流れになるだろうと思っている。

#### 【栗山高等学校について】

町長：

栗山高校についてもいろいろな課題がある。

町民：

学校に進学（就学）支援制度があると魅力が出てくると思う。

教育長：

福祉での支援活動を連携させることも考えている。しかし、介護福祉学校の問題と同じく、栗山高校に行きたいと思える魅力づくりを進めていかなければならない。支援活動と魅力づくり、2つの対策を両方同時に行っていく必要がある。町内および近隣の町に栗山高校の取り組みについて知ってもらう努力も必要。栗山中学校の卒業生は今後も90人程度で、大幅な減少なく推移すると予想されている。現在、栗山中学校の卒業生の7割が町外に進学していることも問題。栗山高校の入学者を一定数確保できるような対策を考えたい。

町長：

金銭面の魅力よりも、鶴川高校の野球や昔の妹背牛高校のバレーのように、スポーツだけに限らないが、特色を活かした高校そのものの魅力を高めていくことが必要。

町民：

三笠高校は、高校生レストランをつくって収益をあげているが、その収益は高校に還元されるなど、高校生の達成感や喜びにつながっているのか。

教育長：

高校生レストランは、施設も含めて全て市が管轄しており、収益も市に入っている。その収益は、三笠のブランド開発につながる食品開発などに使用されている。高校生レストランはあくまでも授業の一環として行っている活動であるため、収益をあげて直接何かに使う、ということにはなっていない。

町民：

傍から見て、三笠高校は楽しそうなイメージがある。栗山高校もそういったものが必要だと思う。

町長：

三笠高校はとても人気で、もう1間口増やしたらどうかと聞いてみたことがある。しかし、今はブームで人気もあるが、今後2間口維持できる見通しがなく、そこまで踏み切れないと言っていた。三笠高校は町外からたくさんの入学者が来て賑わっているが、当初は道教委と非常にもめていた実情もある。道は廃止を進めていたが、市立の高校で運営していくという決断に、非常にギクシャクしていた。しかし、結果として良い状況に好転しており、そういった決断も必要なのだと思った。

町民：

三笠高校には地元の子どもはほとんどいないと聞いた。

町長：

現在、三笠高校に三笠出身の生徒は0人である。

町民：

それはそれでどうかと思う。

**【防災対策に関して】**

町民：

町の防災対策について、自助・共助・公助で、我々の生命を守っていただけるような、協定のようなものはあるのか。

町長：

現在、協定は結んでいないが、有事になった時には、行政は警察・消防と連携して、そこに消防団など地域の方にも参加いただいて、公助を固めていく。自助、共助の部分は、皆さん自身で災害に備えていただくこと、地域で自主防災組織をつくって支えていく仕組みが必要だと思う。

情報伝達手段について、町には防災無線がないため、地域の皆さんに情報伝達することができない。これから開設するコミュニティFM局で、町の災害状況を伝えられるような、また、避難所生活になった時に、安らぎや安心感を与えられるような整備をしていきたい。できる範囲で、町民の皆さんの生命財産を守るような仕組みを構築していきたい。

**【宮城県角田市への支援に関して】**

町民：

宮城県角田市が被災したが、義援金や支援物資などの支援は行うのか。

町長：

角田市では物資はあまり不足していないということで、現在はふるさと納税の災害支援寄附の代理納付に取り組んでいる。明日から角田市に行くが、長時間滞在すると相手方にも気を遣わせてしまうので、激励とドリンクなどを差し入れて持っていこうと考えている。町職員も延べ7人支援に出しており、姉妹都市として60年の絆があるため、助けられるときは率先して助けられる状態を保っていきたい。

町民：

角田市へのふるさと納税のことを聞きたい。町民もできるのか。

経営企画課主幹：

角田市への災害支援寄附を町で代理受付している。返礼品はないが、ふるさと納税を通して寄附すると税の控除が受けられるため、スーパーなどの募金箱に寄附するよりは寄附者にはメリットがあると思われる。被災の翌日17時よりふるさとチョイス上で支

援フォームを開設しており、本来は角田市で行う業務を代理で町が行っている。

町長：

加えて、議会にこれからお願いすることになるが、町からも 100 万円の見舞金を出すことで考えている。

福祉総括

日赤栗山分区で、公共施設に募金箱を設置して、台風第 19 号被災地への募金活動を行っている。これまでは町内会に直接寄附をお願いするケースもあったが、今回は募金箱の設置をしている。

#### 【ごみの分別に関して】

町民：

ごみの分別の仕方が変わると聞いた。いつから変わるのか。

町長：

千歳市の焼却施設を利用する計画で、2 市 4 町で協議を進めており、令和 6 年稼働予定として計画している。ごみの分別方法について、今はまだ変わらず、6 年後になるため、しばらくは分別にご協力願いたい。将来的には千歳市で焼却することになるが、残渣は各市町で持ち帰って処分することになる。ごみ処理場に今の容量を残しておく努力も必要であり、町民の皆さんには面倒をお掛けすることになってしまうが、ごみの分別にご協力をお願いしたい。

町民：

将来的にはごみの分別が楽になるのではないかという印象があるのだが、どうなのか。

町長：

燃やせるごみの範囲が広がるため、少し負担減になるのではないかと思う。

#### 【札幌夕張線に関して】

町民：

札幌夕張線の話はどうなったのか、道に確認してほしい。橋もボロボロになっている。

建設総括：

昨年も同様のご質問をいただいた。跨線橋について町として要望しているが、なかなか予算がつかない状況。今は、橋や公園施設、河川の整備にお金が回っていて、道路整備にお金が回ってこない状況がある。町として引き続き要望していきたい。

町民：

消費税の増税で税収が上がっているが、そういった補修や整備などにお金は回らないのか。

町長：

国土強靱化ということで、特定の災害対策などに予算が多くなってきている。福祉やそういったところにお金が回っているような感じもある。年金の受給年齢引き上げなど、年金制度の信用性が下がり、心配な部分もある。